

心こそ大切

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない

(ユネスコ憲章前文より)



盛大に開かれた新春フェスタ2011

心の中心に平和のとりでを築く

第13回 ユネスコ新春フェスタ2011

国際理解、協力、交流などの活動を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞の表彰式と新春コンサートを組み合わせた恒例の「ユネスコ新春フェスタ2011」(主催・広島ユネスコ協会、後援・広島市教育委員会)は、十三日、県民文化センター鯉城会館で開かれました。

第一部、奨励賞表彰式は、

活動奨励賞表彰式

新春コンサート

記念パーティー

国際理解、協力、交流の輪さらに広く

学ぶとともに全国に平和学習の場を提供するなどの活動に。広島市立観音中学校は、ヒロシマを知らない県外の中学生に原爆遺跡を案内するという設定のもと、

学校部門は四校。広島市立千田小学校は、校庭で被爆した木を平和教材として蘇らせ、被爆樹木を通して惨禍を偲び、生命の尊さを

授が、受賞団体それぞれの活動評価を交えながら講評。そして北川会長から賞状と記念のブロンズ楯が次の学校、団体に贈られました。

まず北川建次会長の挨拶で始まり、続いて選考委員長の中山修一広島大学名誉教授が、受賞

ピン・ルソン島に書籍、スポーツ用品、学習用品などを送り、現地で販売した収益金で苗木を購入、植林による森の再生などの国際支援活動に。広島なぎさ高等



10団体に活動奨励賞を授与

被爆建物や慰霊碑を探訪。写真に収め、説明文を作成し「平和ガイドブック」を刊行するなどの活動に。広島市立東原中学校は、「ルソンの森を蘇らせよう」という運動に共鳴してファイリ



華やかに津軽三味線  
コンサート

学校は、マレーシアの熱帯雨林で暮らす先住民イバンの村を訪ね、イバンの生活を体験しながら自らの生き方を考えるための研修旅行を実施するなどの活動に。

社会部門は六団体。ISRは、広島市内の大学生を中心に、大学間の国際交流ネットワークを通して、国際交流や留学生支援活動などへの取り組みに。広島

合唱同好会は、広島で最も歴史のある混声合唱団。定期演奏会での「国際交流ステージ」は定番のプログラムで好評。加えて海外での演奏活動などに。広島掃除に学ぶ会は、「掃除をして心の荒れを無くす」という実践活動に共鳴した人たちの集まりで、公園など公共施設のトイレの徹底清掃を続ける



三味線の音色に合わせ舞いや歌が披露されました

地道な活動に。フェミニンコール広島・広島ジュニアコーラスは、定期演奏会のほか各種演奏会や市民イベントなどに参加。海外からの合唱団の広島滞在中の世話を引き受けるなどの支援活動に。ふれあい日本語教室は、中国からの永住帰国者やインドネシア難民の自立支援をはじめ、ブラジルなどの日系人就労者や広島在住の外国人のための日本語学習支援活動に。よりメイト倶楽部Hiroshimaは、



津軽三味線演奏の手ほどきを受ける中学生

森の再生と自然保護を目的に近郊の山の下刈り、間伐、枝打ちなどの活動を支援。広く市民にも参加を呼びかけるなど森林整備・環境啓発活動に對して。表彰に続いて各学校、団体の代表からそれぞれ活動内容の発表が行われました。

第二部は、恒例の新春コンサート。今年はいつもと趣を変えて津軽三味線の演奏を企画。出演は村上三弦道広島支部 師範の村上進



ヒップホップダンスも

後進の指導とともに韓国大邱市で開催された「生涯学習フェスティバル」に参加するなど、国際交流にもボランティアで積極的に取り組んでいる津軽三味線奏者。

コンサートは賑やかに「津軽じょんがら曲弾き」に始まり、

輝(しんよう)さんと杜中の皆さん。村上さんは宮崎県に本部のある村上三弦道で津軽三味線を修行され、

受賞団体一覧

【学校部門】

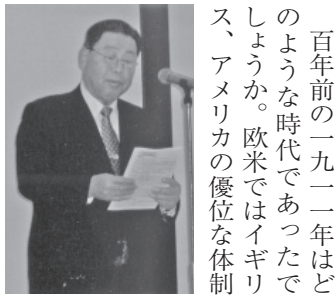
広島市立千田小学校  
被爆樹木などを教材として全国の学校とも交流し、「平和の尊さ」を考える教育を推進  
広島市立観音中学校  
「平和ガイドブック」づくりを通して、ヒロシマを伝え平和を築く教育に成果  
広島市立東原中学校  
フィリピン「ルソンの森」を蘇らせる植林活動への支援を通して、環境問題への理解を深め国際協力に寄与

【社会部門】

広島なぎさ高等学校  
マレーシア・サラワク研修旅行を推進され、現地の人たちとの生活体験を通じて自然の恵みや生命の大切さを学び生かす教育に成果  
ISHR  
大学間の学生ネットワークを構築し、国際交流や留学生支援活動を推進  
広島合唱同好会  
長年にわたり、合唱による音楽活動や国際交流に貢献  
広島掃除に学ぶ会  
トイレ掃除を通じて、青年の健全育成や地域環境づくり、国際的な交流に成果  
フェミニンコール広島・広島ジュニアコーラス  
長年にわたり、合唱による音楽活動や国際交流に貢献  
ふれあい日本語教室  
永住帰国者の日本語指導を通じて、自立支援を図りながら、国際理解と親善に寄与  
もりメイト倶楽部 Hiroshima  
森の再生と自然保護・環境啓発活動を長く続けられ成果

北川会長の挨拶の要旨

二十世紀もいつの間にか最初の十年が過ぎ、今年には二〇一一年。時の流れは急速であり、かつ混沌としております。



百年前の一九一一年はどのような時代であったのでしょうか。欧米ではイギリス、アメリカの優位な体制の置かれた年でした。現在、中国は世界有数の巨大な国家として成長しておりますが、朝鮮半島は依然として不安定な状況にあります。日本は、二十世紀前半の悲劇からそれを教訓に平和国家として発展し、

ヒロシマの精神、ヒロシマの真価が問われる時！

下でありましたが、アジアでは欧米日の圧政下で、急激な近代化を成し遂げようと苦闘の歴史下にありました。中国では辛亥革命、朝鮮では韓国併合、朝鮮総督府の置かれた年でした。現在、中国は世界有数の巨大な国家として成長しておりますが、朝鮮半島は依然として不安定な状況にあります。日本は、二十世紀前半の悲劇からそれを教訓に平和国家として発展し、

ユネスコ精神に則った国家として繁榮しています。しかし、現下の東アジアの情勢は、日本が戦後六十五年間ずっと希求してきた方向とは反する方向に向か



「シャンシャン馬道中唄」に続いて大野不二栄さんのパーティーで受賞者が活動報告

うかも知れません。今こそ我々は、ユネスコ精神に則って戦争のない、人類を滅亡させる悲惨な核兵器のない世界をつくり出して行かなければなりません。ヒロシマの精神、ヒロシマの真価が問われる時がきました。

日本舞踊で華やかな雰囲気になり、さらに客席の観音中学校などの生徒による三味線初体験のパフォーマンスもあって、会場は拍手と笑いに包まれました。演奏は「津軽の四季・あいや節」「よさこいじょんがら」で盛り上がりつつ終わりました。表彰式、コンサートに続くパーティーでは、食事の合間に受賞団体が入れ替わりステージに立って、メンバーの紹介や活動余話などを披露し楽しいひとときとなりました。



なごやかに懇談・会食

こうしてユネスコ会員と受賞団体の関係者や参加者との和やかな交歓、交流は時間の経つのをわすれるほど、今年も年の初めにふさわしい「ユネスコ新春フェスタ」となりました。  
(文化部会長 井尾義信)



写真①は「輛の浦景観論争」についてプレゼンをする本校生徒  
①はドイツのユネスコ・スクールの高校生と握手



サッカー場の屋根の上でソーラーパネルの説明を聞く

## ドイツのハイゼンベルク・ギムナジウムを訪問

1月19日～25日 ユネスコ・スクールと交流

広大附属中・高校教諭 藤原隆範氏

### 「輛の浦景観論争」を発表

の相違について学び合う  
②ドイツのユネスコ・

の浦」のフィールドワーク  
を行い、ドイツでは「輛の浦の景観論争」についてプ

ネットワークに本校が参加  
していくことを願いました。

一月十九日から二十五日まで、広大附属高校の生徒十四名・教師四名で、ドイツ・カールスルーエ市のユネスコ・スクールであるハイゼンベルク・ギムナジウムを訪問しました。

スクールと交流することによって、日本が他国のユネスコ・スクールと交流する際のプログラムのモデルを開発する ③ドイツの環

大戦で戦災を体験するなか、歴史的景観を再現する

このほか、カールスルーエ市役所で「都市緑化と河川の再自然化」について講義を聞き、カールスルーエ交通連合では、路面電車がドイツ鉄道に相互乗り入れする交通政策の講義を聞き、電車で試乗しました。

目的は、①生徒をドイツに派遣し、現地高校生とディスカッションを行うこととによって、日本とドイツとの環境・エネルギー政策

他国のユネスコ・スクールと交流する際のプログラムのモデルを開発する

日本のESD実践のための教材・教育内容を収集する

①生徒をドイツに派遣し、現地高校生とディスカッションを行うこととによって、日本とドイツとの環境・エネルギー政策

環境・エネルギー政策を学ぶことを通して、日本のESD実践のための教材・教育内容を収集する、でした。現地で発表するため、「輛

街づくりを行っており、それと対比する意図でプレゼンを行いました。ハイゼンベルク・ギムナジウムは、ユネスコ・スクールとしてインドやラテン・アメリカの学校と恒常的な交流を行っており、その

次に「環境首都」と呼ばれるフライブルク市を訪れ、リヒャルト・フェーレンバッハ実業学校で「再生可能エネルギー」の講義を受けソーラータワーを見学、ヴォーバンエコ住宅を訪れ「パッシブハウス」を見学しました。また、ドライザム水力発電所やドライザム・サッカー場のソーラーパネルを見学し、シユタウディングガール総合制学校では「エコワット・プロジェクト」について学びました。

ドイツ市民の環境に対する意識の高さが政治・経済を動かし、それが科学技術の開発と有機的につながっているところに、「持続可能な社会」の雛形を見

### ソーラー施設も見学



持続可能な社会と地理教育実践  
中山修一氏

自 著 紹 介

『持続可能な社会と地理教育実践』

中山修一・和田文雄・湯浅清治編  
古今書院 5600円(税別)

広島大学名誉教授  
広島ユネスコ協会副会長

中山 修 一 氏

本書は、研究プロジェクト「地理教育におけるESDカリキュラム開発の総合的研究」(2008-10年度・代表・中山)のメンバーによる研究成果を、理論編、実践編、海外編、評価論編の4部28章の構成でまとめたものです。

理論編では、ESD(持続発展教育)持続可能な社会を創る教育に関する理論的背景を、実践編は、小学校から大学までの授業実践例を、海外編はESD先進国の米国、英国、ドイツ、中国の取組みの現地調査報告を、そして評価論編では、

ユネスコが取組むESDの評価について論じています。

本書の目的は、教育振興基本計画(2008)や新学習指導要領(2008)において、持続可能な社会の構築の知識と技能の習得が義務付けられたことに即応し、その重要性や学校カリキュラムの推奨事例を具体的に提示することです。

ESDは、ヨハネスブルグ・サミット(2002)で日本が提案し、日本の支援でユネスコが策定した国際実施計画により、国連ESDの10年(2005-14)世界運

動となった教育改革の最重要課題です。本書が、ESDに関心を持たれる一人でも多くの方々に、少しでもご参考になれば幸いです。

ユネスコスクール連協  
結成を県に申し入れ

県ユ連協

広島県ユ連は、二月二十四日、広島県教委を訪ねて広島県ユネスコスクール連絡協議会(仮)結成の申し入れを行いました。

現在、広島県内の小中・高校合わせて十九校あるユネスコスクール登録校間の

発 信

1 協会設立までの過程

一九九六年(平成八年)十二月七日、厳島神社と前面の海、背後の弥山(みせん)原始林(天然記念物)を含む区域(431・2ha)が世界遺産として登録。二〇〇一年四月二十五日に、この世界遺産を後世に受け継いでいく取り組みを強化するため、町民有志七十数名によって、宮島ユネスコ協会を設立しました。

2 会発足十周年。その活動状況と特色

文化遺産を後世に継承するための意識啓発事業とし

宮島ユネスコ協会

会長 井口 健氏  
いのくち たけし

今後、結成に備えて同協議会の運営要綱や学校が求める教材などの準備が求められます。

交流と研修を、県教委とユネスコが共同で推進するための協議会であるという趣旨説明に対し、県教委側から現時点では学校間の繋がりやの欠如を解決することが先決だという回答で、結成の話は先送りとなりました。

今回のユネスコスクールの取り組みは、二月初旬の広島、宮島各ユ連の協議、二月十五日の両ユ連と県連の合同会議に基づくもので、市域ごとのスクール連絡協議会は当地のユ協がそれぞれの市教委と協議を進めること、また広島、宮島合同学習会も確認されました。

(連協会長 亀井 尊)

総額千五百万円にも上ります。二つ目は毎年八月の「平和の鐘を鳴らそう」のイベント。

3 今後目指すもの(重要課題)

自然と共にある厳島神社は、平成になって大きな台風三回見舞われ、背後の弥山原始林も平成十七年、白糸川で土石流災害がありました。そこで世界遺産を後世に継承していくためには、地球温暖化防止等の取り組みが必要であると痛感します。ESDの学習が二〇一一年度から、小中・高校で必修化されます。ユネスコスクールを増やしていくようではありませんか。

世界遺産・宮島  
継承へ啓発運動

かでも近年、定着した事業を二つご紹介いたします。一つはユネスコ世界寺子屋運動等の支援金となる書き損じはがきの回収です。これは廿日市市平和の祭典の事業で、まとめて日ユ連へ送付しています。はがきの回収枚数は、八万九千九十四枚、



サラワク体験セミナー①と、街頭募金活動

広島市ひと・まちネット  
ワークと市青少年センター、  
広島ユネスコ協会は昨年  
十二月二十三日(木・祝)、  
高校生国際理解セミナーを  
開催。これ  
にはマレー  
シア・サラ  
ワクで先住  
民と生活を  
共にした広島なぎさ高校生  
と、国際理解教育に取り組  
む広島大学附属高校生が参  
加、体験報告や意見交換を  
活発に行いました。

またこの日の午後、高校  
生とユネスコのメンバーが  
市内の街頭で、世界寺子屋  
運動推進の街頭募金活動を  
実施。寄せられた浄財・七

国際理解セミナー開く

募金は日本ユネスコ連盟へ届ける

万七千五百円は郵便局を  
通じ、社団法人日本ユネス  
コ協会連盟(東京)に届け  
ました。

日誌

〈10年12月〉

23日/国際理解セミナー「マ  
レーシア・サラワク・スタ  
ディーツアーの体験」  
発表・広島なぎさ高校二  
年生

講師・なぎさ高校教諭

野中春樹さんほか

(広島市青少年センター)

23日/世界寺子屋運動街頭募  
金 高校生・会員  
(天満屋八丁堀店横歩道)

〈11年1月〉

22日/新春フェスタ・ユネス  
コ活動奨励表彰式・新春  
コンサート「津軽三味線の  
響き」村上進輝さんほか  
(鯉城会館)

〈2月〉

7日/広報部会「機関紙の内  
容」  
(交流プラザ)

15日/「新たなユネスコ活動  
支援について」協議  
北川会長、中山副会長ほか  
(市民交流プラザ)

〈3月〉

19日/第一四五回ユネスコサ  
ロン「オルゴール&ギター  
コンサート」ギタリスト・  
オルゴール作曲家橋本勇夫  
さん (己斐公民館)  
19日/理事会 (己斐公民館)  
25日/機関紙第77号発行

(株)玉屋 専務取締役

児玉賢司氏



ユネスコ協会へは、  
藤井事務局長の薦めで  
入会しました。藤井様  
とは公民館、自宅が近  
所、インドネシアの支  
援団体などでお付き合  
いがあります。  
昨今、力を入れてお  
りますのは、公民館、  
消費者センター、老人  
会などで、日頃わかり

にくい葬儀費用や手順  
などについて「葬儀も  
のしり講座(知って得す  
る葬儀の話)」というテ  
ーマで、お話しさせて  
いただいております。  
広島日タイ友好協会  
会員。ユネスコの活動  
を通じ、少しでもお役  
に立てればと思ってい  
ます。座右の銘は「過  
去を悔いず未来を憂い  
ず、今を一生懸命に生  
きる」。健康法は、一  
日二回(時には一回)の  
犬との散歩とスポーツ  
クラブでの運動です。  
汗をかいた後にサウナ  
に入り、水風呂に入る  
と体が引き締まった感  
じになります。

広島ユネスコ協会のひと顔

NPO法人日本話しことは  
協会 認定講師

梶井朝子さん



先に入会した母に誘  
われて私も即入会。サ  
ロンに顔を覗かせてい  
るうちに、当時の事務  
局長・亀井さんから熱  
烈ラブコールを受け理  
事の末席に加えていた  
だいて約十年が経ちま  
した。「人の心の中に  
平和のとりをを」の  
ユネスコ憲章前文が好

きで、何かできればと  
思っているのですが、  
まずはできることを  
と、協会行事の当日応  
援隊員としてがんばっ  
ていきます(笑)。  
入会した当時はケー  
ブルテレビ局に勤めて  
おりましたが、現在は  
フリーで司会や話し方  
講師の仕事をしており  
ます。目下目指してい  
るのは「自然暮らし」。  
西条の築百年の古民家  
に住んでいる幸運に気  
づき、母を手伝って畑  
での野菜作りにも挑戦  
しているところです。  
趣味は茶道、ヨガ、篠  
笛。自家製野菜料理を  
友人に振舞うのが一番  
の楽しみ。